

## 市内における各種イベント・会議・研修会などの開催に当たって

### 富良野市新型コロナウイルス対策本部

新型コロナウイルス感染については、富良野地方においては、一定程度に収まりつつありますが、全国的には感染が拡大してきており、爆発的な感染拡大（オーバーシュート（爆発的の患者急増））も懸念されております。

市内においても、国・北海道の要請に応え3月までの会議、イベント等の延期・中止などの対策を講じられてきたところではありますが、今後においても以下の点にご留意のうえ、ご対応を図ってくださいますようお願いいたします。

また開催にあたっては、国の「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」の提言などを踏まえ感染防止対策を図ったうえでのご対応をお願いします。

#### 1. 「3つの条件が同時に重なった場」の設定を避ける。

集団感染が確認された場に共通する①換気の悪い密閉空間、②多くの人が密集、③近距離（互いに手を伸ばしたら届く距離）での会話や発声という3つの条件が同時に重なった感染発生リスクが高い状況を回避してください。

#### 2. 人が集まる場の（時間的）前後も含めた適切な感染予防対策の実施

会場に入る際の手洗い場所の確保、参加者の手が触れる場所の消毒などを徹底してください。

#### 3. 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力などへの対応を講じてください。

#### 4. 開催に当たっては、次の点を考慮するなど、感染防止を図ってください。

(1) 広い会場の使用や少人数開催など、密接度を低くするよう工夫。

(2) 出席者間を1 m程度（推奨はお互いの手が届かない範囲）空けて配置するなど、会場配置を工夫。飛沫感染防止のため、十分な距離を確保。

(3) 出席者へマスク着用の周知。出席者に発熱等の風邪症状が見られる場合には、出席を遠慮してもらうよう徹底。

(4) 会場内の定期的な換気。

参考に、「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」提言を添付しますので、参考にしてください

## 「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」提言 =抜粋= (2020年3月19日)

### 2. 市民と事業者の皆様へ

#### (1) 3つの条件が同時に重なった場における活動の自粛のお願い

これまでに明らかになったデータから、集団感染が確認された場に共通するのは、①換気の悪い密閉空間であった、②多くの人々が密集していた、③近距離(互いに手を伸ばしたら届く距離)での会話や発声が行われたという3つの条件が同時に重なった場ということが分かっています。例えば、屋形船、スポーツジム、ライブハウス、展示商談会、懇親会等での発生が疑われるクラスターの発生が報告されています。

皆さんが、「3つの条件が同時に重なった場所」を避けるだけで、多くの人々の重症化を食い止め、命を救えます。

#### (9) 大規模イベント等の取扱いについて

2月26日に政府が要請した、全国的な大規模イベント等の自粛の成果については、その効果だけを取り出した「まん延防止」に対する定量的な効果測定をできる状況にはないと考えていますが、専門家会議としては、以下のような観点から、引き続き、全国的な大規模イベント等については、主催者がリスクを判断して慎重な対応が求められると思います。

全国規模の大規模イベント等については、

- ① 多くの人々が一堂に会するという集団感染リスクが想定され、この結果、地域の医療提供体制に大きな影響を及ぼしかねないこと(例: 海外の宗教行事等)
- ② イベント会場のみならず、その前後などに付随して人の密集が生じること  
(例: 札幌雪まつりのような屋外イベントでも、近辺で3つの条件が重なったことに伴う集団感染が生じていること)
- ③ 全国から人が集まることに伴う各地での拡散リスク、及び、それにより感染者が生じた場合のクラスター対策の困難性  
(例: 大阪のライブハウス事案(16 都道府県に伝播))
- ④ 上記のリスクは屋内・屋外の別、あるいは、人数の規模には必ずしもよらないことなどの観点から、大規模イベント等を通して集団感染が起こると全国的な感染拡大に繋がると懸念されます。

このため、地域における感染者の実情やその必要性等にかんがみて、主催者がどうしても、開催する必要があると判断する際には以下①～③などを十分注意して行っていただきたい。しかし、そうしたリスクへの対応が整わない場合は、中止又は延期をしていただく必要があると考えています。

また仮にこうした対策を行っていた場合でも、その時点での流行状況に合わせて、急な中止又は延期をしていただく備えも必要です。

- ① 人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施、
- ② 密閉空間・密集場所・密接場面などクラスター(集団)感染発生リスクが高い状況の回避、
- ③ 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力  
などへの対応を講ずることが求められます。

(別添「多くの人々が参加する場での感染対策のあり方の例」参照)

## 別添 【多くの人が参加する場での感染対策のあり方の例】

### 1) 人が集まる場の前後も含めた適切な感染予防対策の実施

- 参加時に体温の測定ならびに症状の有無を確認し、具合の悪い方は参加を認めない。
- 過去2週間以内に発熱や感冒症状で受診や服薬等をした方は参加しない。
- 感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方は参加しない。
- 体調不良の方が参加しないように、キャンセル代などについて配慮をする。
- 発熱者や具合の悪い方が特定された場合には、接触感染のおそれのある場所や接触した可能性のある者等に対して、適切な感染予防対策を行う。
- 会場に入る際の手洗いの実施ならびに、イベントの途中においても適宜手洗いができるような場の確保。
- 主に参加者の手が触れる場所をアルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含有したもので拭き取りを定期的に行う。
- 飛沫感染等を防ぐための徹底した対策を行う（例えば、「手が届く範囲以上の距離を保つ」、「声を出す機会を最小限にする」、「咳エチケットに準じて声を出す機会が多い場面はマスクを着用させる」など）

### 2) クラスタ（集団）感染発生リスクの高い状況の回避

- 換気の悪い密閉空間にしないよう、換気設備の適切な運転・点検を実施する。定期的な外気を取り入れる換気を実施する。
- 人を密集させない環境を整備。会場に入る定員をいつもより少なく定め、入退場に時間差を設けるなど動線を工夫する。
- 大きな発声をさせない環境づくり（声援などは控える）
- 共有物の適正な管理又は消毒の徹底等

### 3) 感染が発生した場合の参加者への確実な連絡と行政機関による調査への協力

- 人が集まる場に参加した者の中に感染者がでた場合には、その他の参加者に対して連絡をとり、症状の確認、場合によっては保健所などの公的機関に連絡がとれる体制を確保する。
- 参加した個人は、保健所などの聞き取りに協力する、また濃厚接触者となった場合には、接触してから2週間を目安に自宅待機の要請が行われる可能性がある。

### 4) その他

- 食事の提供は、大皿などでの取り分けは避け、パッケージされた軽食を個別に提供する等の工夫をする。
- 終了後の懇親会は、開催しない・させないようにする。

※ 上記は例であり、様々な工夫が考えられる。